



Hospital News

診療科紹介 びょうりい 患者さんと病理医 ～病理診断をご存じですか～



獨協医科大学病院 病理診断科 診療部長 石田 和之

「皮膚のできもの、少し切りとって顕微鏡でみてもらいますね」
「胃から出血している原因について、胃粘膜を少し採って調べてもらいますね」
「手術で切除した肺は顕微鏡で詳しく調べて、それから今後の治療を決めましょう」
これはすべて病理診断です。患者さんの病気そのもの(検体)を採取して、顕微鏡でその病気の正体を突き止める(診断する)のが病理医の役割です。(図1)



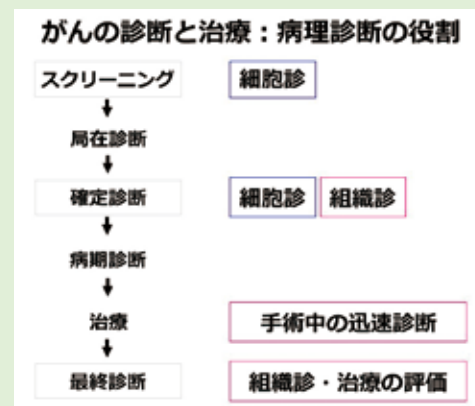
(図1) 病理診断の様子

そして、採取された検体から顕微鏡で観察可能な病理標本を作製するのが病理技師の役目です。我々は患者さんの前に出ることはありませんが、患者さんの細胞や組織から、腫瘍かどうか、良性か悪性か、薬剤感受性、炎症の原因など様々なことを明らかにしていきます。(図2)



(図2) 患者さんと病理医

例えばがん診療では、病気があるかどうかを調べるスクリーニング、病気の確定診断、治療の評価とそのフィードバックに、病理診断(組織診、細胞診)を通じて関わっています。(図3)



(図3) がんの診断と治療

また、手術中の迅速病理診断は、術式の決定において重要です。病理医は、医療における重要性から、「病気の裁判官」「メスを持たない外科医」「Doctor of Doctors」などと呼ばれています。

当院の病理部門は医師が所属する病理診断科と、技師が所属する病理部から構成されています。病理部では検体から細胞診や組織診の標本を作製しますが、その過程は複雑で様々な工程を経て行われ、技師は病気への理解と高い技術を要します。

同じ病気であっても人の組織や細胞は千差万別で、治療法も多様化しています。患者さんから採取した組織や細胞、時にはタンパク質や遺伝子情報までみて、個々の患者さんに役立つ病理診断が求められます。当院では病理医・病理技師も主治医を通じて患者さんに寄り添い、質の高い医療を提供いたします。

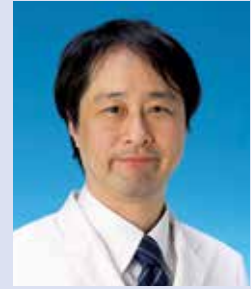
DOKKYO MEDICAL SCOPE もご覧ください！
QRコードはこちら→



診療科紹介

いつまでも見えるために

獨協医科大学病院 眼科 診療部長 河越 龍方



朝起きてから夜寝るまで、多くの動物は目を開いて生活しています。普段は気にかけませんが、見えるということは生活において非常に重要なことで、夜暗いところで歩行することの困難さを考えればその重要性を皆さん経験されているかと思います。

ある日突然見えないことに気づき眼科を受診される方がいます。我が国における成人の中途失明の原因として、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症などが挙げられますが、これらは早期発見早期治療により失明を免れる可能性が高い疾患です。眼科健診をある程度定期的に受けることが非常に重要になります。

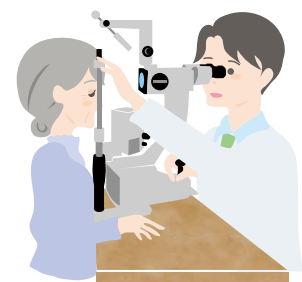
緑内障は、40歳以降のおよそ5%の方に生じる疾患です。緑内障では視神経を構成している網膜神経節細胞が死滅していき、それに対応した視野が失われていく疾患で、進行すると視力も失ってしまいます。残念ながら、現在のところ神経は再生できませんので、失われた視野や視力を元に戻すことができません。最近では、多くの進行抑制点眼薬が開発され使えるようになっており、また手術方法も年々改良され、その進歩には目を見張るものがあります。ただ先ほども述べたようにあくまでも進行を抑制する治療になりますので、悪くなる前に治療を開始することが大切になります。

糖尿病は、発症して間もないころは全身に異常を感じる事が少ない疾患です。症状が出現するころにはかなり病気が進行してしまっているところが非常に厄介だといえます。血糖が高い状態を長年放置していると、ある日突然見えなくなることがあります。糖尿病網膜症では、網膜に虚血(血が行かない部分)が生じ、そのために異常な血管(新生血管)が生じてきます。新生血管はその壁が脆弱で、血管内の液体が外に漏れ、また容易に出血します。硝子体への出血を繰り返す、網膜に異常な膜が張ってきて牽引性網膜剥離になる、新生血管がもとで緑内障になるなど、手術が必要になることがあり、回復の見込みが悪いことも多くなります。血糖コントロールが最も重要であるのは当然ですが、眼科における定期的な観察が重要です。網膜の虚

血を検査で見つけたら、レーザー治療をしますが、それ以上の悪化を防ぐ重要な治療になります。

加齢黄斑変性は、50歳以降に生じることが多い疾患で、わが国では滲出型といって、黄斑の中心部に新生血管が生じ水漏れや出血を生じるタイプが多くを占めます。視力低下や歪みを生じますが、片眼だけですと、良いほうの眼が補うことによって進行しても気づかないこともあります。黄斑とは網膜(眼の奥の光を感じてその電気信号を脳まで届ける役割)の中でも中心にあり、文字を読むなど詳しく見るために重要な部位です。喫煙が大きな原因のひとつであるため、発症してしまったら禁煙することも重要です。血管新生を引き起こす物質(VEGF)にたいする薬を硝子体内に定期的に注射することでその発生を抑えることが治療の第一選択になります。

以上視機能を脅かす、頻度の高い疾患を挙げましたが、いずれも早期診断ができれば、悪くなることを防ぐ可能性が高い疾患です。ただ、いずれも初期には本人は気づかないことが多く、まずはかかりつけ眼科診療所で疾患が無いかを定期的にチェックすることが必要です。専門性の高い治療が必要な際には高度医療を行う大学病院へ紹介となります。大学病院での治療が一段落ついたら、また診療所での経過観察に移行するという病診連携(お互いに連携をとる)により、栃木県内の患者皆さんに最適な医療が行き届くよう目指しています。眼科では他にも様々な疾患を取り扱っています。眼でお困りのこと不安なことがありましたら、我々栃木県眼科医会の医師にぜひご相談ください。



令和7年度夜間消防訓練が実施される

大学病院庶務課

令和8年3月27日(金)午後3時から、第1部「火災通報装置を使用した通報訓練」、第2部「エアストレッチャーを使用した避難訓練」及び第3部「散水栓を使用した消火訓練」が、消防保守協会と院内講師の説明・立ち会いの下に行われました。病院の消防訓練については、消防法により、特定防火対象物として年2回、昼夜それぞれ実施することが義務付けられており、本訓練は、院内関係者約30名が参加しました。

通報訓練では、教育医療棟のナースステーションに設置されている火災通報装置を病棟の看護師が実際に作動させ、消防署との電話対応を行いました。実際の手順に沿った訓練を行うことで、通報時の流れや留意点を再確認する良い機会となりました。

避難訓練では、令和7年度に導入(病棟を中心に29台設置)したエアストレッチャーを使用し、模擬患者を乗せて階段の昇降による避難を実施しました。初めて操作する参加者が大半を占めましたが、参加者が役割を確認しながら真剣に取り組んだ結果、円滑に模擬避難を完遂することができました。

最後に実施した消火訓練では、教育医療棟1階南口出入口付近にて、散水栓ホースを展開し、実際に放水操作を行いました。実際に水圧を体感しながら操作することで、初期消火の難しさと重要性を改めて認識を深めることができました。

今後もこうした訓練を定期的を実施し、有事の際には率先して対応する行動力を身につけておくことが重要であると改めて感じました。



第1部(通報訓練)



第2部(避難訓練)



第3部(消火訓練)

非常事態の対応について

地震・火災・その他非常事態が発生した場合は、病院スタッフの指示に従い慌てず冷静な行動をお願いします。

- ★非常事態が発生した場合は、エレベーターは使用しないでください。
- ★当院は耐震(本館、新館)・免震(教育医療棟)構造を備えています。
- ★ご入院中の患者さんの非常時避難経路は、ナースステーション前に貼ってありますのでご確認ください。



～病院へのお手紙に関するご回答～

思いやり駐車場の所に朝8時から車椅子を置いて欲しい。車椅子を取りに行くのが大変です。もっと親切に対応して欲しい。

(回答) 現在、身障者駐車場(第2駐車場)にて、ご利用いただける車椅子をご用意しております。加えて、アイン薬局前の駐車場精算機付近にも数台配置いたしますので、ご利用ください。

駐車場にて車の窓を開けてタバコを吸っている人がいたため、近くの守衛さんに注意してくれとお願いしたところ、車の中にいたら注意できない。窓を開けて煙が外に出ているも何も言えない。といわれました。敷地内は全面禁煙のはずでは?とても不愉快でした。

(回答) 当院は敷地内禁煙となっております。職員による不定期の巡回をしており、敷地内全面禁煙であることを指導の上、禁煙にご協力いただけますようお願いさせていただきます。

私は現在他院に勤務する看護師です。大学時代に2度ほど貴院で手術を受けた経験があり、その際の対応がとても印象的だったため、今回の出産もぜひ貴院でお願いしたいと考えておりました。帝王切開当日は、手術そのものや生まれてくる子供のことなど、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、手術室に入った際に担当の看護師さんが声をかけてくださり、その何気ない会話に心が和らぎ、緊張がほぐれて、安心して手術に臨むことができました。高度な専門性と迅速な対応が求められる環境の中で、患者に寄り添った温かい言葉をかけてくださる看護師さんの姿勢に、心から感謝しております。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

(回答) この度は嬉しいお言葉をありがとうございます。「手術」という人生の中でも大きな出来事に際し、少しでも安心できる環境を整えることができると日々、心掛けております。今後もいただいたお言葉を励みにより良い看護が提供できるようスタッフ一同励んで参ります。

会計の待ち時間をゼロに!

待たずに
帰ろう!

医療費あと払いクレジットサービスのご案内

診察が終わったら少しでも早く帰りたい…医療費をあと払いにすることで、会計を待たずにすぐにお帰りにいただけるサービスです。

登録&利用料
無料

医療費あと払いクレジットサービス ご利用登録サイト
<https://s3.medicalpay.jp/dmuh/login/>

※ご登録から完了まで、安全のためご自身の接続環境に切り替えてください(Wi-Fiオフ等)



看護師・薬剤師募集

当院では、看護師・薬剤師を募集しております。
採用試験等については、ホームページ採用情報の職員募集サイトをご覧ください。

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880 獨協医科大学病院 庶務課職員係

電話 0282-87-2038 (受付時間: 月~土 8:30~17:00) *休日除く E-mail shokuin-b@dokkyomed.ac.jp



当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

獨協医科大学病院

検索

